



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



巻頭言

歯科病院長 榎 宏太郎

平成29年も残すところあと僅かとなりました。

光陰矢の如し、と申しませんが、一年があっという間に過ぎてしまいます。

皆様におかれましては、お忙しい師走の中、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

本年、歯科病院では、卒業専門教育の調査と整備を開始しました。これは、臨床研修医を修了して各科に入局された先生が、それぞれの専門領域でどのような指導を受けられているかを調査し、カリキュラムやシラバスの整備を促進することを目的としております。

すでに、各講座では、学会が定めた専門医や指導医を取得するための条件をもとにして、それぞれのカリキュラムが構築されております。ここで、再度、それらの実態がどのようなものかを整理し、相互に理解することによって、他科との新たな協力体制を策き、より先進的な診療システムの創出にまで発展させたいと考えております。その上で、広く学外にも内容を公開し、世界中から優秀な人材が集うコースにすることが出来ればと願っております。

ご存知のように、患者数、設備、地域、のいずれにおきましても、本院は大変恵まれた環境にあります。このことは、日本の歯科医療をさらに発展させる原動力となるべき立場にあるということをも示しており、後進の育成は不可欠です。

さらに、優れた専門医、生涯に渡って進歩し続ける歯科医師の育成に大切なものは、構造化された教育環境のみではなく、知識から体験へ、記憶から思考へ、と大胆に方法をシフトすることも重要です。また、課題の完了などの評価のための動機づけだけではなく、内容への興味を引き出し、達成感を味わってもらうことも必要です。

では、その内発的な動機や知的好奇心は、どのようにして活性化されるのでしょうか。それは、現場に立つ先輩医師たちの、情熱や苦悩を後輩に語る実直さ、そして、将来の夢や希望を求める生き方、に依存します。



また、専門領域であればあるほど、科学性や先進技術から遠ざかってしまう危険性もあります。過去の教育手法を踏襲するだけでなく、もっと多様化し、開放的になるべきかもしれません。今後、様々な観点から、卒業専門教育を見直し、社会に寄与する専門医の誕生を支えたいと考えております。

来年も、大きな夢に向けて、力を合わせて進みましょう。皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

白菊会連合会平成29年度総会が開催されました

口腔解剖学講座 中村 雅典

平成29年12月3日(日)に大井町の品川区立総合区民会館(きゅりあん)大ホールで白菊会連合会総会が開催されました。当日は幸いにも快晴で、参加8大学11学部から945名の会員が出席され、昭和大学歯学部白菊会からも50名が参加されました。午後2時開場となり、各大学解剖学講座の教職員ならびに本年度の当番校である東京慈恵会医科大学の2年生が会員をお出迎えしました。総会は東京慈恵会医科大学の河合良訓教授による開会の辞の後、物故会員への黙祷を捧げました。次いで、東京慈恵会医科大学学長、文部科学省高等教育局医学教育課長、日本解剖学会理事長、日本篤志献体協会理事長、篤志解剖全国連合会会長、白菊会連合会会長の祝辞、白菊会連合会事務局長からの会務報告が行われました。最後に次期当番校である昭和大学歯学部口腔解剖学講座の中村が閉会の辞を述べ、総会は終了しました。その後のアトラクションでは、河合教授の高校の同期であるフリーアナウンサーの松本秀夫さんが「慈恵医大におけるご献体関連行事と学生の成長過程」と題し、人体解剖学実習を経験することで学生が人間的にどのように成長するかについて持ち前の絶妙トークでお話いただき、会員はこの会がいかに学生の医療人に育つために重要であるのかをあらためて認識することとなりました。次年度は12月3日(日)に同ホールで昭和大学歯学部口腔解剖学講座が当番校として開催いたします。



CBT が実施されました

CBT 委員長 荒木 和之

12月13日(水)に、平成29年度共用試験 CBT が実施されました。一部の交通機関で遅延が起こり心配していましたが、受験を希望していた4年生105名は遅刻や欠席もなく全員無事受験しました。当日は旗の台校舎4号館600号教室を試験会場とし、学生は午前8時40分に集合し、全320問の問題に取り組みました。試験は6ブロックに分かれており、各ブロック60分で解答をおこない、最後にアンケートをして解散となりました。学生は終始緊張の面持ちで試験に臨んでいましたが、CBT 事前説明会やCBT 体験テストの経験もあって、大きな混乱もなく無事試験を終了することが出来ました。運営は、中村先生(副実施責任者)、鈴木先生(副実施責任者)、坂井先生(サイトマネージャー)、学務の係員と私が担当しました。試験監督は午前・午後各3名のべ6名の体制でおこない、基礎系の先生方をお願い致しました。

当日は共用試験実施評価機構から東北大学の若森教授、奥羽大学の木村教授がモニター委員として派遣され、実施状況を監視されました。試験終了後の反省会では、受験態度や実施状況など、全体的に良好でしたとのコメントをいただきました。

CBT 実施にあたりご協力いただいた先生方・事務方の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

マダガスカル口唇口蓋裂医療協力報告会が開催されました

歯学部長 宮崎 隆

平成29年度昭和大学マダガスカル口唇口蓋裂医療協力活動は、平成29年9月9日から23日まで、医学部形成外科学講座 土佐泰祥准教授を団長とする19名(学生4名を含む)の派遣団により、マダガスカル共和国アンツィラベにあるクリニックアヴェ・マリアで行われました。協力活動は今回で7回目になり、14名の手術を無事に終了しました。

その報告会が、12月1日(金)午後6時から大学病院の臨床講堂で開催されました。宮崎国際交流センター長の開会の辞で始まり、小口勝司理事長、マダガスカル大使館のロゼッタ ラソアマナリヴォ臨時代理大使、笹川記念保健協力財団の紀伊國献三最高顧問の挨拶がありました。土佐先生の概要説明に引き続き、学生(歯学部からは5年生の原 隆蔵君)、留学生(ニジーナ マンジャーノ先生)、歯科医師(歯科矯正学 中納治久准教授)、看護師(藤が丘病院 村木美紀さん)、医師(麻酔科学講座 加島有紀先生)の順番でそれぞれの立場からの報告がありました。

今回は取材班として山本晋也監督とカメラマンが同行し、過去に手術を受けた子供たちの追跡調査を含めた膨大な撮影資料を数分に編集した動画が紹介さ

れました。成長した患児との感動的な再会や、手術の成功で人生が変わった子供たちの紹介があり、改めて本事業の重要性を認識させられました。

小出学長の総括のあと、小川医学部長の閉会の辞で報告会を終了しました。



中納先生のご尽力で今年度は地元で歯科医師会長をしていたヘルズ ラウトハリニグ先生が1年間本学に留学して研修を受けています。またマダガスカル唯一の歯学部であるマジェンダ大学と学部間交流協定締結の準備を進めており、今回アヴェ・マリアへ大学からの見学者が訪れました。現地の人材育成には時間がかかりますが、健全な口腔機能の育成を目標に長期の視野にたつて協力活動を継続したいと思えます。今後とも関係者のご支援を宜しくお願い申し上げます。

川崎市歯科医師会との協定を締結しました

歯学部長 宮崎 隆

去る12月5日(水)本学旗の台校舎1号館6階会議室において、公益社団法人川崎市歯科医師会と本歯学部との包括連携に関する協定書の調印式を執り行いました。川崎市歯科医師会側からは山内典明会長、花村裕之副会長、松山知明専務理事、三浦政良事務長が、本学からは宮崎学部長、榎歯科病院長ほか関係者が参列しました。



本学はすでに神奈川県歯科医師会と包括連携に関する協定書を締結していますが、神奈川県下でも東京に近接した川崎市歯科医師会とは長年学術交流や医療連携を活発に行ってきました。スペシャルニードの必要な歯科医療に関しても協力関係を築いてきました。今後、学生教育や生涯教育を含めて、さらに連携を深め地域社会の発展にも貢献したいと考えています。

避難訓練が実施されました

口腔病理学部門 美島 健二

本年11月20日(月)16時に避難訓練が実施されました。本訓練は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災における甚大な被害状況をふまえ、大規模災害を想定した避難訓練として実施されたものです。具体的には、東京湾北部を震源とするマグニチュード7.3の大地震を想定し、激しい余震により建物が倒壊する危険性があるため屋外に避難するという設定で施行されました。まず、全館放送により地震発生の指示があり、初期対応として各自揺れが治まるまでは机等の下に入り、落下物から身を守る対応が指示されました。さらに、火元などの確認やドアを開けるなどの避難経路の確保が行われ、その後、地震の揺れがおさまった事を想定し、1号館(B1~2階・7階)、4・5・10・11・12・14号館は中庭へ、1号館(3~6階)、2・3・15号館は上條講堂前へ、そして16号館は、1号館裏の公園(旗の台一丁目特定児童遊園)へそれぞれ避難を開始しました。それぞれが避難場所に到着後、各部署の報告者は避難場所で避難者数を確認し、避難前の在室人数と避難者数を本部に報告し訓練が終了しました。本避難訓練は、毎年一回施行されていますが、これを機会に初期対応方法や避難経路の再確認がなされ実際の地震への対策として有意義なものとなりました。



第65回 JADR 総会・学術大会を主催しました

口腔生化学講座 宮本 洋一

第65回国際歯科研究学会(JADR)総会・学術大会(大会長:上條竜太郎)が、平成29年11月18日(土)・19日(日)の両日、旗の台キャンパスを会場として開催されました。JADRは、国際歯科研究学会(IADR)の部会のひとつで、米国部会に次いで世界で2番目の規模を持ちます。今回の学術大会では、森和俊先生(京都大学)の基調講演、Dr. Angus Williams G. Walls(IADR 会長)、Dr. Seong-Ho Choi(IADR 韓国部会会長)、Dr. Harry-Sam Selikowitz(FDI 国際歯科連盟学術委員会委員長)、Dr. Irma Thesleff(フィンランドアカデミー会員、米国科学アカデミー外国人客員会員)の特別講演の他、3件のシンポジウムと2件のランチョンセミナーが開催され、活発な議論がなされました。また、海外からの54演題を含む、183件の

一般演題が2日間に渡りポスター発表されました。一般演題総数・海外からの演題数ともに近年の JADR 学術大会で最大の規模でした。最後になりますが、ご発表下さった先生方ならびに大会運営にご尽力下さった先生方に心から感謝申し上げます。



日本医学教育学会認定医学教育専門家に認定されました

歯学教育学部門 片岡 竜太

日本医学教育学会 認定医学教育専門家資格制度は、欧米の医学(医療者)教育修士課程をモデルとして、「教育プログラムの企画立案・運営ができる」「学生教育やFDを通じて学習・教育効果を高める」「学生・プログラム評価に精通している」教育専門家を養成するために2014年から始まりました。医学教育専門家を取得するには教育実践、カリキュラム開発、学生評価などについて、自分の教育活動について他人にわかるように記述する教育業績であるポートフォリオの提出が求められます。これを2名の評価者に4段階で評価されます。現在、医師を中心に69名が認定されています。

学外実習、学部連携PBL、コミュニケーション実習などを中心に学生にポートフォリオの提出を義務づけていますが、



自分もポートフォリオを書くことで大変良い勉強になりました。書いた内容を裏付けるエビデンスが求められ、実践した授業などについて論文やアンケート、成績などのデータが必要になります。このような教育についてのポートフォリオはティーチング・ポートフォリオと呼ばれますが、授業改善のための「振り返り」を行い、改善の目標を立てて、具体的にどのように改善するかを検討します。

今年度の授業は終わりつつありますが、学生アンケート、試験の正答率などのデータに基づき、次年度の授業改善を目指してティーチング・ポートフォリオを作成したいと思います。

行事予定

広報委員長 中村 雅典

1月13日(土)14日(日) センター入試

1月25日(木) 選抜I期・センター利用I期入試

D3地域連携歯科医療実習と報告会 が実施されました

地域連携歯科学部門 丸岡 靖史

「地域連携歯科医療実習II」は、平成26年度から必修化され、10月から12月にかけて、3期に分けて約100名の歯科医師会の先生に学生の指導をお願いしています。今年度12月14日に報告会が実施されました。当日は、宮崎歯学部長の挨拶の後、実習の総括、東京都歯科医師会山崎一男会長の講演が行われました。午後の学生発表会では、①地域保活ケアシステム、②病診連携、③高齢者の生理的、心理的、行動的特徴、④歯科医師会の役割について、10数名の学生が発表し、指導歯科医院の先生（約30名）との討論を行いました。

実習終了後、指導歯科医院の先生と地域連携歯科医療実習II・IIIに関しての意見交換会が行われました。学生のモチベーションの向上、コミュニケーション教育の場、将来の歯科医師像を考える場になっているなどの実習の意義を多くの先生が感じられており、かなり情熱を傾けて指導していただいていることがわかりました。その後外来棟7Fのレストランで、D3学生委員も参加した懇親会で学生・指導医とでさらに懇親を深めることができました。

昨年度から、1年時「地域連携歯科医療実習I」、3年時「地域連携歯科医療実習II」、5年時「病院歯科実習」で周術期口腔機能管理を含めて急性期・回復期での歯科の対応や多職種医療連携を学習し、さらに「地域連携歯科医療実習III」で在宅歯科医療での慢性期の対応、地域包括ケアに関して学習しております。「地域連携歯科医療実習I・II・III」の遂行には、教育連携協定を締結している山梨県歯科医師会・東京都歯科医師会・神奈川県歯科医師会・各地区歯科医師会の先生に大変お世話になっております。今後とも歯科医療の発展、将来の人材育成のため、学生教育へのご協力をどうぞ宜しくお願い申し上げます。



日本宇宙生物科学会で優秀発表賞を受賞しました

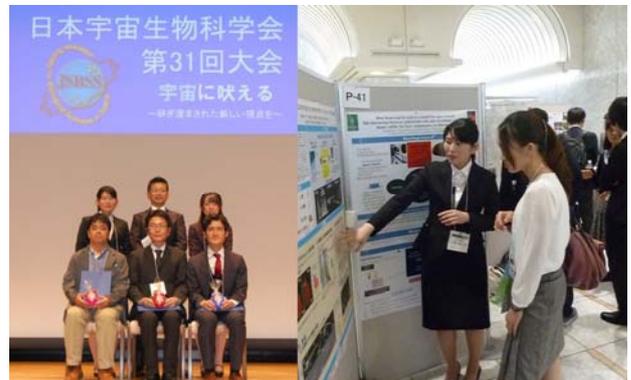
マルチドクタープログラム(歯学部5年)三橋 あい子

平成29年9月20-22日、群馬会館において第31回日本宇宙生物科学会が開催されました。本学会は生物科学を宇宙に普遍的な科学へと発展させることを目的として1987年に設立され、JAXA(宇宙航空研究開発機構)後援のもと、宇宙や重力研究の国際的な情報交換の場となっています。

今回は、「歯と骨の恒常性に及ぼす重力の生物学的作用—メダカを用いた加重力実験」というタイトルで口頭およびポスター発表を行いました。学会での口頭発表は初めてでしたが、良い緊張感をもって発表でき、京都大学の先生や人工衛星開発企業の研究者などと共に優秀発表賞受賞者の1人に選ばれたことをとても嬉しく思います。

会場では、宇宙線が人体に与える影響について詳しく学び、また重粒子線による口腔がん治療を行っている口腔外科の先生から専門的なお話を伺うことができました。特に、微小重力空間だからこそ起こり得る筋力の低下や口腔内細菌叢の変化が、齲蝕や口腔環境にどのように影響するのか、探求心をくすぐられました。

今回の学会発表は、歯科薬理学講座の先生方、主に茶谷昌宏先生のご指導により実現したものです。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



受賞

広報委員長 中村 雅典

日本歯周病学会 Young Investigator Award
歯周病学講座 中村紫野

認定医取得

広報委員長 中村 雅典

日本障害者歯科学会認定医
障害者歯科学部門 栗谷未来、馬目瑠子

編集後記

口腔生化学講座 吉村健太郎

編集が年末にかかり、発行が遅れましたことをお詫び申し上げます。お忙しい中、ご寄稿下さりありがとうございました。平成30年が皆様にとって幸多い一年になるよう心よりお祈り申し上げます。